

# 児湯地域基本計画

## 児湯農林振興局

令和8年3月

児湯農林振興局

### 目次

(ページ)

1	計画の性格と役割	1
2	地域農業・農村の特性	2
3	現状・課題	3
4	目指す将来像	4
5	重点的施策一覧	5
6	各重点的施策 (No. 1 ~ No. 5)	
	・No. 1 : スマート農業技術と大規模化による施設ピーマン日本一の堅守	6
	・No. 2 : 効率的な農地利用と機械化・分業化による土地利用型作物の産地づくり	8
	・No. 3 : 分業生産体制の確立と経営力向上による肉用牛産地の維持	10
	・No. 4 : 多様なニーズに応える儲かる果樹産地への改革	12
	・No. 5 : 地域資源の活用や有機農業など環境と調和した農業の推進	14

# 1 計画の性格と役割

本計画は、児湯地域における農業・農村の持続的発展に向け、目指す将来像や重点的施策をとりまとめたもので、以下の役割を有します。

なお、計画は、「地域農業・農村の特性」、「現状・課題」、「目指す将来像」、「重点的施策」で構成し、重点的施策においては、令和8年度から令和12年度の5年間で取り組む内容や目標を「全体計画」として示しています。

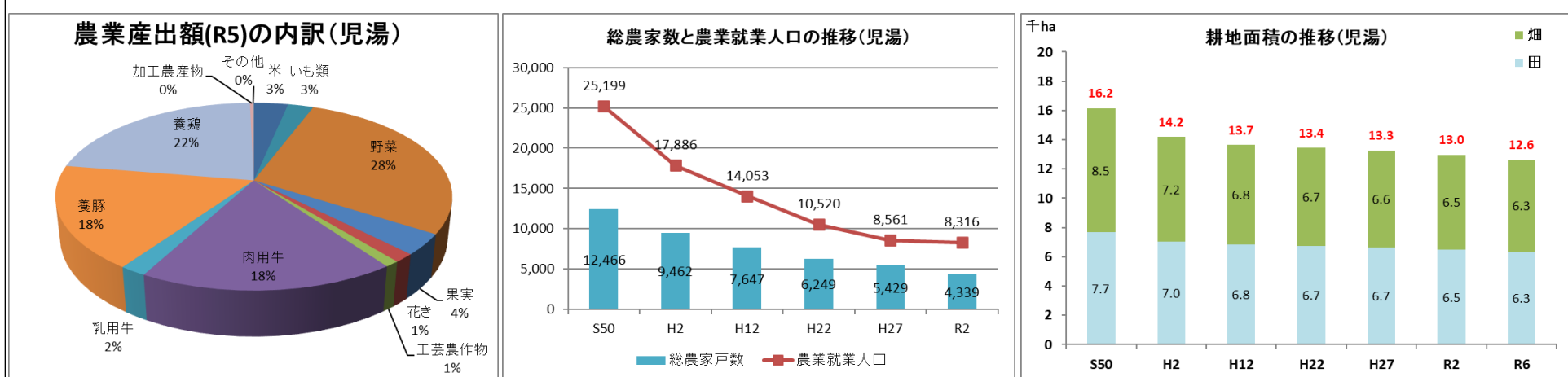
実施に際しては、別途「単年度計画」を作成し、より具体的に実施内容や時期等を明らかにした上で取り組みます。

本計画が、農業者、市町村、農業関係団体等における諸計画や産地振興等に向けた共通指針として活用されることを期待します。

- 第八次宮崎県農業・農村振興長期計画における、目標や目指す将来像の実現に向けた具体的な施策である「基本計画」のうち、「児湯地域」における具体的な展開方向を示す計画として位置付けます。
- 農業改良助長法における協同農業普及事業の運営に関する指針及びガイドライン、県協同農業普及事業の実施に関する方針に基づく普及指導活動計画として位置付けます。
- 令和4年度に改正された農業経営基盤強化促進法に基づく「地域計画」の策定を踏まえ、地域計画の実現に向け重点的に支援する地区を本計画に位置付けます。

# 2 地域農業・農村の特性

- 児湯地域は、温暖で多照・多雨という農業生産に適した気候条件に恵まれ、野菜や畜産を中心に農業産出額(R5)が、796.7億円にのぼる、県全体(3,720億円)の21.4%を占めるなど、県内トップクラスの産地を形成しています。
- 品目別の農業産出額は、耕種部門が、野菜222.7億円、果樹28.2億円、米26億円、いも類19.4億円等と全体の4割、一方、畜産部門は、養鶏173.6億円、肉用牛140.7億円、養豚140.6億円等の順で全体の6割を占めています。
- 農業就業人口は、8,316人(R2センサス)、H22比では21.0%減少しています。R6の新規就農者数は63人で、農業法人への雇用就農が約半数を占めますが、H28の109名以降は減少傾向にあり、ここ5年間は70名弱で推移しています。施設ピーマンでは、関係機関・団体が一体となった「受入から研修、定着までの支援体制」が整備され成果を上げています。
- 耕地面積(R6)は、田6,348ha、畑6,278ha。R6年度末の担い手への農地集積面積と集積率は8,718.5ha、69.1%、H25比では1,508ha、15.1%増加しています。農地の将来地図を明確化した「地域計画」が170地区(R6)で策定され、今後の担い手への農地の集積・集約の加速化が期待されています。
- 中山間地域では、農業生産の維持や集落機能の強化、地域の活性化を図るため、国の直接支払制度等を活用した地域活動が展開されています(R6年度：中山間地域等交付金29集落・217.1ha、多面的機能交付金45組織・5,931ha)。



### 3 現状・課題

- 施設園芸では、担い手の減少や高齢化、生産コストの増大や価格低迷などの影響により、産地の縮小が懸念されています。そのため、当地域を代表する品目「ピーマン」を先導役として、収益性を高める環境制御技術等の確立や、経営管理能力の向上を図ることで、産地をけん引する経営体の育成を進め、きゅうりやトマト類、マンゴー等にも波及させる必要があります。
- 水稲や露地園芸等の土地利用型作物では、農地の集積・集約化を前提に、作業の効率化と経営規模の拡大を図ることが急務となっています。そのため、「地域計画」による合意形成を基本に生産基盤の整備を進めるとともに、農業法人や実需者と連携した機械化・分業化体制を拡大する必要があります。また、担い手の確保・育成の仕組みも構築する必要があります。
- 畜産では、飼料・資材価格の高騰と牛肉消費の低迷の影響を受ける「肉用牛」経営の立て直しが大きな課題となっています。そのため、繁殖基盤の維持に向けて、高齢農家の負担軽減や意欲ある担い手の規模拡大をさらに進めることが重要であり、飼料生産・飼育管理の分業化やスマート技術による省力化のほか、個々の経営に応じた指導体制を構築する必要があります。
- 果樹について、中山間地域の基幹品目「ゆず」では、高齢化等による管理不足が生産量の低下を招いており、産地の存亡が懸念されています。一方、県内屈指の産地「ぶどう」では、高級品種への転換が進む中、管理作業時間の拡大や加工用品種の面積縮小が課題となっています。そのため、労働力確保・調整の仕組みづくりや省力化技術の普及を進める必要があります。
- 環境保全型農業では、地域の特長や資源を活かした取組を実装化することが重要であり、特に有機農業では、生産・流通・販売の総合的な戦略が求められています。そのため、有機たい肥やバイオマス消化液等を有効活用した取組も進めるとともに、「茶」を中心とした有機JAS認証の拡大や新たな有機商品の開発、契約取引や直売所の活用などを進める必要があります。

### 4 目指す将来像

#### 高度な生産基盤と技術が調和した「持続的で創意あふれる児湯地域農業」

- 施設「ピーマン」では、高度な環境制御技術や経営管理能力を備えて、高収益・高品質を実現した経営体(トップランナー)が産地をけん引し、さらに、その技術力・経営力が地域に波及することで、揺るぎない「日本一の産地」が実現しています。また、スマート農業技術や高機能施設等を駆使して、大規模周年出荷に挑戦する企業的経営体が出現しています。
- 土地利用型作物では、地域計画に基づき農地の集積・集約や簡易基盤整備等に積極的に取り組む地域が増え、スマート農業機械が実装する生産性の高い産地が確立しています。また、農業法人や加工業者等との受委託による機械化・分業化に取り組む経営体が増加しています。さらに、露地園芸の独立就農を支援する仕組みが整備されています。
- 「肉用牛」では、コントラクター組織や外部組織の活用により、分業生産体制が確立しています。また、スマート畜産技術が普及し、繁殖成績や飼養管理技術の向上と作業の省力化が実現しています。さらに、意欲ある経営体の規模拡大が進み、繁殖基盤が維持される一方で、コンサルタントによる経営診断など経営管理能力を向上する仕組みも構築されています。
- 果樹について、「ゆず」では、作業性の高い園地整備と低樹高・省力化技術が普及した上、異業種や短期労働者等の活用により十分な労働力が確保されたことにより、生産量が増加しています。また、「ぶどう」では、複数の高級品種を組み合わせ高収益を実現する経営体や青果用と加工用品種を組み合わせ大規模経営体などが産地をリードしています。
- 環境保全型農業では、児湯地域の特長である耕畜連携の取組が拡大し、有機たい肥やバイオマス消化液等の畜産由来の資源を活用した技術や資材が普及しています。また、有機JAS認証を取得する経営体が拡大し、「茶」をはじめ地域ならではの品目や加工商品が増加するなど、県内を代表する有機農業の産地に成長しています。

## 5 重点的施策一覧

No.1 : スマート農業技術と大規模化による施設ピーマン日本一の堅守

No.2 : 効率的な農地利用と機械化・分業化による土地利用型作物の産地づくり

No.3 : 分業生産体制の確立と経営力向上による肉用牛産地の維持

No.4 : 多様なニーズに応える儲かる果樹産地への改革

No.5 : 地域資源の活用や有機農業など環境と調和した農業の推進

No	施策名	リーダー／サブリーダー	支援期間
1	スマート農業技術と大規模化による施設ピーマン日本一の堅守	農業経営課長 / 農畜産課長	R8～12
対象市町村			
西都市、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町			

全体計画（5年間計画）

(1) 目指す将来像と必要な取組

5年後に 目指す 将来像	1. 高度な環境制御技術と経営管理能力を備えて高収量・高品質を実現した経営体(地域トップランナー)が、施設ピーマン日本一の産地をけん引しています。 2. 地域トップランナーをはじめ、次世代を担う経営体の生産技術と経営管理能力が地域に波及する仕組みが構築されています。 3. 施設の機能向上や長寿命化・低コスト化、労働力確保や就農支援など、産地維持に必要なサポート体制が整備されています。 4. スマート農業技術や高機能施設等を活用した大規模周年出荷に挑戦する企業の経営体が出現しています。
必要な 取組	① データと理論に基づいた地域トップランナーの収量向上対策 ② 次世代を担う経営体の生産技術・経営管理能力の向上 ③ 産地維持を支えるサポート体制の推進 ④ 将来の大規模化に向けた施策の展開

(2) 目標

指標	R6 (基準)	R12 (目標)	指標	R6 (基準)	R12 (目標)
● 施設ピーマンの平均反収(t)※1	13.8	20.0	● みやざき農業データ基盤 ミライズ加入戸数(戸)	21	135
● 低コストハウス導入数(件)	8	55	● 雇用人材研修受講者数 (人)	-	200

※1 施設園芸のデジタル化推進プロジェクト(Dプロ)に参加している生産者の平均反収

(3) 必要な取組ごとの実施内容と連携体制(全体像)

取組事項	地企	農畜	農計	農整	地支	農経	他	R8	R9	R10	R11	R12
<b>取組①：データと理論に基づいた地域トップランナーの収量向上対策</b>												
内容1：地域トップランナーを核にしたデータの解析					○	●	市町、JA、農試	●	→			
内容2：環境制御技術を活用した栽培技術の確立					○	●	市町、JA、農試		●	→		
内容3：地域トップランナーの技術習得の促進					○	●	市町、JA、農試		●	→		
<b>取組②：次世代を担う経営体の生産技術・経営管理能力の向上</b>												
内容1：担い手経営者を対象とした生産技術習得の促進					●	○	市町、JA、農試	●	→			
内容2：担い手経営者の経営マネジメント力の向上	○				●		市町、JA、農試	●	→			
内容3：地域への高度な生産技術・経営管理能力の波及	○				●	○	市町、JA、農試				●	→
<b>取組③：産地維持を支えるサポート体制の推進</b>												
内容1：施設の機能強化や長寿命化・低コスト化の推進	○	●			○		市町、JA、 ハウスメーカー	●	→			
内容2：スマート農業技術の導入		●				○	市町、JA、業者	●	→			
内容3：地域ぐるみの労働力確保の仕組みづくり	○				●		市町、JA、業者	●	→			
内容4：就農しやすい環境づくり	○				●		市町、JA	●	→			
<b>取組④：将来の大規模化に向けた施策の展開</b>												
内容1：県域プロジェクトへの参画(高軒型ハウスの低コスト化)		●				○	市町、JA	●	→			
内容2：大規模化経営に挑戦する経営体の選定		●			○		市町、JA				●	→

No	施策名	リーダー／サブリーダー	支援期間
2	効率的な農地利用と機械化・分業化による土地利用型作物の産地づくり	農村計画課長 / 地域農政企画課長	R8～12
対象市町村			
西都市、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町			

全体計画（5年間計画）

(1) 目指す将来像と必要な取組

5年後に目指す将来像	1. 地域計画に基づく話し合い活動により、担い手への農地の集積・集約への合意形成が図られた産地が増加しています。 2. 地域計画を足がかりに、簡易基盤整備等が積極的に実施され、スマート農業機械が実装する生産性の高い産地が確立しています。 3. 加工業者や農業法人等との機械化・分業化体制が構築され、高収益品目に取り組む経営体が増加しています。 4. 露地園芸の独立就農を支援するための研修や承継等の一連の体制が整備され、新たな担い手が安定して確保・育成されています。
必要な取組	① 地域計画のモデル地区と各種施策が連動した戦略的な産地づくり ② 農地の区画拡大やスマート技術による水田営農の生産性向上 ③ 機械化・分業化体制の構築を核とした露地野菜の産地強化 ④ 露地園芸の新たな担い手を確保・育成するための仕組みづくり

(2) 目標

指標	R6 (基準)	R12 (目標)	指標	R6 (基準)	R12 (目標)
● 担い手への農地利用集積率 (%)	69.1	80.0	● 耕種版インテグレーション取組数 (件) (累計)	2	4
● 5ha以上の経営体が耕作する水田面積の割合 (%)	37	50	● 土地利用型部門における新規就農者数 (人)	0	3
● ほ場の区画拡大 (フル整備・簡易整備) (ha)	3,393	3,470	● 畑地かんがい施設の整備 (ha)	2,796	2,938

(3) 必要な取組ごとの実施内容と連携体制 (全体像)

取組事項	地企	農畜	農計	農整	地支	農経	他	R8	R9	R10	R11	R12
<b>取組①：地域計画のモデル地区と各種施策が連動した戦略的な産地づくり</b>												
内容1：関係機関との協議による支援体制の整備	●				○		市町、農委会、農地バンク	●	→			
内容2：対象地域における地域計画の達成に向けた全体調整	●				○		市町、農委会、農地バンク、JA	●	→	→	→	→
内容3：農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約	●		○	○			市町、農委会、農地バンク			●	→	→
<b>取組②：農地の区画拡大やスマート技術による水田営農の生産性向上</b>												
内容1：作業効率の向上を可能にする簡易基盤整備等の実施		○	●	○			市町、改良区、JA、農地バンク	●	→	→	→	→
内容2：スマート技術等を活用した稲作経営体の規模拡大の推進	○	●				○	市町、改良区、JA、農地バンク	●	→	→	→	→
<b>取組③：機械化・分業化体制の構築を核とした露地野菜の産地強化</b>												
内容1：加工・業務用野菜のインテグレーションモデルの確立		○				●	JA、加工・集荷等事業者	●	→	→	→	→
内容2：新品目の導入・産地化に向けた取組強化		○				●	市町、JA、加工業者	●	→	→	→	→
内容3：病害虫や気候変動等に対応した露地野菜の安定生産		○				●	市町、JA、農試	●	→	→	→	→
<b>取組④：露地園芸の新たな担い手を確保・育成するための仕組みづくり</b>												
内容1：経営発展段階に応じた各種研修など就農支援体制の強化	○				●		JA、農大校	●	→	→	→	→
内容2：労働力確保に向けた雇用人材の確保と支援体制の確立	○				●		JA、市町村	●	→	→	→	→
内容3：独立就農に向けた露地版就農支援体制の確立	○				●		市町、農業振興公社	●	→	→	→	→

No	施策名	リーダー／サブリーダー	支援期間
3	分業生産体制の確立と経営力向上による肉用牛産地の維持	農畜産課長 / 地域支援課長	R8～12
対象市町村			
全市町村			

全体計画（5年間計画）

(1) 目指す将来像と必要な取組

5年後に 目指す 将来像	1. コントラクター組織や外部組織の積極的な活用により、分業生産体制が確立しています。 2. 発情発見器などのスマート畜産技術が普及するとともに、個々の経営体に応じた省力化対策が図られています。 3. 若手農家を中心に適切な経営規模への拡大が進み、子牛セリ市場規模（母牛頭数13,000頭）が維持されています。 4. コンサルによる経営診断などの支援体制が整備され、持続的な畜産経営を行う仕組みが構築されています。
必要な 取組	① 飼料生産・飼養管理の分業化・外部化の推進 ② 省力化技術の普及・定着 ③ 意欲ある担い手の確保・育成対策の推進 ④ 経営管理能力の向上対策の強化

(2) 目標

指標	R6（基準）	R12（目標）	指標	R6（基準）	R12（目標）
● 作業受託戸数（戸）	716	752	● 生産性分析結果活用量数（件）	-	350
● キャトルステーション利用率（%）	54	100	● スマート機器の導入戸数（戸）	95	100
● 若手農家育成人数（人）	-	10			

(3) 必要な取組ごとの実施内容と連携体制（全体像）

取組事項	地企	農畜	農計	農整	地支	農経	他	R8	R9	R10	R11	R12
<b>取組①：飼料生産・飼養管理の分業化・外部化の推進</b>												
内容1：コントラクター組織の機能強化（機械導入、草地造成等支援）		●				○	市町村、公社、JA	●→				
内容2：キャトルステーションの利用率向上		○				●	市町村、JA			●→		
内容3：バイオマスプラント活用によるふん尿処理の外部化		●				○	市町村		●→			
<b>取組②：省力化技術の普及・定着</b>												
内容1：省力化技術の検討		○			○	●	JA	●→				
内容2：省力化技術の普及・定着		○			○	●	JA		●→			
<b>取組③：意欲ある担い手の確保・育成対策の推進</b>												
内容1：就農支援システムの仕組みづくり検討		○			●	○	市町村、JA	●→				
内容2：就農支援システムの活用・定着	○	○			●	○	市町村、JA			●→		
内容3：補助事業を活用した施設整備、農地整備、繁殖雌牛導入支援		●				○	市町村、JA			●→		
<b>取組④：経営管理能力の向上対策の強化</b>												
内容1：技術員会と連携した生産技術支援（定期巡回）		○			○	●	JA、NOSAI	●→				
内容2：生産性分析を活用した経営支援	○	○			○	●	JA、畜産協会	●→				
内容3：関係機関と連携した研修体制の構築	○	○			●	○	市町村、公社、JA	●→				

No	施策名	リーダー／サブリーダー	支援期間
4	多様なニーズに応える儲かる果樹産地への改革	地域農政企画課長 / 農業経営課長	R8～12
対象市町村			
西都市、西米良村、川南町、都農町			

全体計画（5年間計画）

（1）目指す将来像と必要な取組

5年後に 目指す 将来像	1. ゆず団地を中心に、基盤整備と低樹高・省力化技術、実需者等と連携した労働力確保対策が普及し、生産量が増加しています。 2. ゆずの青果・加工ごとの戦略的な販売により高単価が維持され、農家の所得が向上しています。 3. ぶどうの労働力確保と省力化技術により栽培面積が維持されるとともに、需要に応じた加工用ぶどうが確保されています。 4. ぶどうの有望な青果用品種が販路に見合った品質・規格で生産・出荷され、所得が向上しています。
必要な 取組	① ゆずの労働力確保の仕組みづくりと園地基盤整備・省力化技術の普及 ② ゆずの青果率の向上と戦略的な販売力の強化 ③ ぶどうの労働力確保の仕組みづくりと省力化技術の確立 ④ 需要に応じたぶどう青果用品種の高品質安定生産体制の構築

（2）目標

指標	R6（基準）	R12（目標）	指標	R6（基準）	R12（目標）
● ゆずの出荷量（t） （米良地域全域）	580	800	● ぶどうの青果用有望品種の 作付面積（ha）	18.3	18.0
● ゆずの青果率（%） （西米良村内）	6	10	● 加工原料用ぶどうの生産量 （t）	102	80

（3）必要な取組ごとの実施内容と連携体制（全体像）

取組事項	地企	農畜	農計	農整	地支	農経	駐在	他	R8	R9	R10	R11	R12
<b>取組①：ゆずの労働力確保の仕組みづくりと園地基盤整備・省力化技術の普及</b>													
内容1：労働力を補完する仕組みづくり	○	○			●		○	市・村、JA、部会、加工業者	●	→			
内容2：低樹高化など省力化技術を駆使したスマートモデル園地の普及		○	○			○	●	市・村、JA、部会、加工業者	●	→			
内容3：平地を中心とした遊休水田や放棄園の園地再生	●		○		○		○	市・村、JA、部会、加工業者			●	→	
<b>取組②：ゆずの青果率の向上と戦略的な販売力の強化</b>													
内容1：青果用と加工用に応じた栽培体系の確立					○	○	●	市・村、JA、部会、加工業者	●	→			
内容2：共同選果体制の構築による青果率向上	○	●			○		○	市・村、JA、部会、加工業者	●	→			
内容3：需要に応じた新商品開発等の販売戦略の構築	●				○		○	市・村、JA、部会、加工業者	●	→			
<b>取組③：ぶどうの労働力確保の仕組みづくりと省力化技術の確立</b>													
内容1：需要量に応じた残すべき加工用品種の園地確保	●		○		○	○		町、JA、部会、(株)都農ワイン	●	→			
内容2：栽培方法に応じた作業受託体制の仕組みづくり	○				●	○		町、JA、部会、(株)都農ワイン	●	→			
内容3：省力的な作業体系を確立するための園地づくり	○	○				●		町、JA、部会、(株)都農ワイン	●	→			
<b>取組④：需要に応じたぶどう青果用品種の高品質安定生産体制の構築</b>													
内容1：需要、栽培条件に適した有望品種の選定		○			●	○		JA、部会	●	→			
内容2：有望品種ごとの販売戦略策定	●	○			○	○		JA、部会		●	→		
内容3：販売戦略に応じた栽培技術の確立					○	●		JA			●	→	

No	施策名	リーダー／サブリーダー	支援期間
5	地域資源の活用や有機農業など環境と調和した農業の推進	地域支援課長 / 農畜産課長	R8～12
対象市町村			
木城町、高鍋町、新富町、川南町、都農町			

全体計画（5年間計画）

（1）目指す将来像と必要な取組

5年後に 目指す 将来像	1. 耕畜連携の取組が拡大し、有機たい肥やバイオマス消化液等の地域資源が、耕種部門で有効に活用されています。 2. 茶における有機転換、契約取引が増加し、茶農家の経営安定が図られ茶園面積の9割が維持されています。 3. 地域において、それぞれ特色を活かした有機農業の推進が図られるとともに、有機農産物を起点とした加工品の開発や地産地消への取組が進んでいます。
必要な 取組	① 畜産由来のバイオマス資源等の良質な地域資源の発掘と活用促進 ② 多様な取引状況に対応した茶産地の維持 ③ 有機品目の重点化と加工から販売まで他産業と連携した取組の推進

（2）目標

指標	R6（基準）	R12（目標）	指標	R6（基準）	R12（目標）
● 有機JAS認証面積（ha）	85	145	● 有機JAS認証件数（件）	23	33
・ 地域資源の活用種類数（種類）	—	4	・ 協業化体制の整備数（件）	—	3
・ 有機推進品目選定数（品目）	—	2			

（3）必要な取組ごとの実施内容と連携体制（全体像）

取組事項	地企	農畜	農計	農整	地支	農経	他	R8	R9	R10	R11	R12
<b>取組①：畜産由来のバイオマス資源等の良質な地域資源の発掘と活用促進</b>												
内容1：良質な地域資源の発掘		●				○		●	→			
内容2：地域資源の各品目における施用効果の検証と波及		●				○		●	→	→	→	→
内容3：活用に向けた供給・運搬体制の整備		●			○	○		●	→	→	→	→
<b>取組②：多様な取引状況に対応した茶産地の維持</b>												
内容1：有機転換の促進と高品質茶生産技術の確立		○			○	●		●	→			
内容2：多様な用途に応じた茶生産技術の確立		○				●		●	→	→	→	→
内容3：多様な取引状況に対応した協業化体制の整備		●			○	○		●	→	→	→	→
<b>取組③：有機品目の重点化と加工から販売まで他産業と連携した取組の推進</b>												
内容1：有機品目の重点化と推進体制の確立	○	○			●	○		●	→	→	→	→
内容2：地域計画の場等を活用した慣行栽培と有機栽培のゾーニングの実施	○				●		木城町			●	→	→
内容3：商工業者等と連携した加工品開発や直売所等を活用した地産地消の推進	○				●		高鍋町・木城町	●	→	→	→	→